



特定非営利活動法人「人間の安全保障」フォーラム

Human Security Forum (HSF)

2020 年度活動計画書

2020 年 5 月

目次

I はじめに	2
II 2020年度活動計画	3
1. 人間の安全保障のための学習支援プロジェクト	3
2. 各種連携、教育プロジェクト	4
3. ANRIP 会議の開催とまなび旅	5
4. 「日本の人間の安全保障指標」プロジェクト	6

I はじめに

「人間の安全保障」フォーラム（HSF）は、すべての人の命、生活、尊厳をまもる「人間の安全保障」の理念は実践されてこそ意義があるとの信念を共有する研究者、学生が中心になって2011年東日本大震災の年に設立され、今年で10年目を迎えます。

今年初め以降、新型コロナウイルスが世界中で猛威を払い、人間の中核である命、生活、尊厳が大きく損なわれ、まさに人間の危機をもたらしています。今こそ HSF の設立理念である「人間の安全保障」に立ち返り、この危機に対して、取り組むことが重要であると思います。HSF としては、この危機への対応にあたって「誰も取り残されないようにするために」提言を4月初めに発表し、人間の安全保障の実現を国内外に訴えました（内容は HSF ホームページをご覧ください）。

2020年度は、引き続き人間の安全保障の理解、支持を増やすために、教育・啓蒙活動、難民関連の国際的な活動、群馬県館林市での学習支援、人間の安全保障指標などの活動を実践していく計画です。対面の活動には制約がありますが、新たな事務局体制（宮下大夢局長、明石剛之次長、山崎真帆次長）の下、創立当時の実践への思いを新たにして、さらなる活動の発展、組織運営の強化を目指して参りますので、今年度もどうぞよろしくご願ひ申し上げます。

2020年5月

理事長 高須幸雄

理事長略歴

現在、国際連合事務総長特別顧問（人間の安全保障担当）、立命館大学客員教授
前国連事務次長（行政監理局長）、元国際連合日本政府常駐代表（国連大使）

II 2020年度活動計画

1. 人間の安全保障のための学習支援プロジェクト

理事 山崎真帆、理事 宮下大夢

2017年度より継続的に展開してきた群馬県館林市における学習支援プロジェクトは、活動報告に既述のとおり関係者間の信頼関係の深まりもあって、徐々に安定したものになりつつある。しかしながら、市内の住民組織との連携についてはまだ取り組み始めた段階であるなど、支援体制の安定化へ向けては課題もある。また、昨年度の活動計画で指摘した保護者のニーズと、HSFが提供してきた支援内容との間にあるギャップについても、スタッフ内で継続的に議論しているものの、マンパワーの不足などを背景になかなか全面的な解消には至っていない状況である。一方で保護者の側からは、本プロジェクトに対し継続を期待する好意的な声が多く寄せられており、本プロジェクトの意義・成果も見えつつあるといえる。HSFとしては、東京―館林間の距離の問題等、本プロジェクトにかかる様々な制約を認識しながらも、より良い支援のあり方を模索していきたい。

他方、活動報告ですでに触れたとおり、2020年4月現在、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大の影響を受け、本プロジェクトは活動内容の大幅な変更を余儀なくされている。3月上旬に六郷公民館の貸館が中止となり、下旬にその無期限延期が決定されて以降は、対面での学習支援というこれまでの形態での活動は、再開の見通しが立たない状況である。そこで本プロジェクトでは、当面、以下のような取り組みを中心に、活動を継続していく。

第一に、SNSを通じた学習コンテンツの紹介、SNS・電話などによるオンラインでの学習支援（スタッフ・ボランティアと子どもたちをSNSでつなぐ）を行う。すでにこうした取り組みは3月の下旬から行っており、今後も継続していく予定である。第二に、SNSを通じ、平易な日本語、あるいは英語等によるCOVID-19に関する情報や、公的支援の情報などを保護者・子どもと共有する。これも3月下旬に開始したものであるが、今後は定額給付など公的支援の申請がはじまることから、国・群馬県・館林市など各行政の動向を注視しつつ、こうした取り組みを拡充していきたいと考える。

2. 各種連携、教育プロジェクト

副理事長 佐藤安信

2020年度は主に以下の活動を予定している。

- HSP/HSF セミナーの企画運営
- 人間の安全保障学会の学生連盟と学会時にイベント開催
- 出前講義、授業、カフェ（難民シリーズ）、スタディツアーなどの企画
- 東大持続的平和研究センターにおける、科学研究費補助金による各種研究会の共催、とりわけ、新型コロナウイルスの収束を待って、可能であれば、10月か11月に、「ポストコロナの人間の安全保障のためのガバナンス：ESG 投資促進のためのネットワーク・ガバナンスの可能性と展望」というような国際シンポジウムを開催
- CDR, ANRIP との連携による難民の国際的保護活動
- CDR、難民政策フォーラムの活動

3. ANRIP 会議の開催とまなび旅

副理事長 佐藤安信、理事 滝澤三郎

新型コロナウイルスの収束を待って、可能であれば、2021年2月から3月にかけて、フィリピンのセブで開催予定のアジアプロボノ会議において、ANRIP 会議を開催する。

この機会に、立正佼成会の一食基金助成金で、フィリピンにおける国内避難民(IDP)、無国籍者に関するまなび旅を開催し、学生らとフィールドワークをする。

2020年はコロナ禍のためミャンマー研修は中止とする。2021年には再開する予定である。

4. 「日本の人間の安全保障指標」プロジェクト

理事長 高須幸雄

SDGs の理念である 2030 年までに「誰も取り残されない社会」を達成するために、人間の安全保障の視点から、日本社会の貧困、格差、社会的排除の実態を可視化するプロジェクトを引き続き推進する。

指標プロジェクトの第 2 フェーズとして、いくつかの都道府県を選んで、当該県内で SDGs の理念を実現するための市町村レベルでの差異、課題を可視化するプロジェクトを進める。そのため、まず HSF の今までの活動で関係の深い宮城県内の 35 市町村レベルでの課題を指標化する。そのため、HSF 有志からなるプロジェクトチームが多数の研究者、大学、団体、自治体などの協力を得て、既に作業を開始している。コロナウイルス危機のため対面の活動に制約があるが、状況を見つつ、北海道でも同様の指標化を行う計画である。

また 2020 年度は、指標の精度、意義を国内でさらに高めるとともに、支援策に関する問題提起・提言を広め、支持を増やす活動を行う。

さらに、人間の尊厳を中軸に置いた人間の安全保障の要素を総合的に指標化する試みは、世界でも先駆的な作業であり、いわば、SDG の先進国版としての汎用性が注目されている（国連開発計画 2019 年版で紹介された）。『SDGs と日本』の英訳版が国際協力機構（JICA）の協力で今秋完成予定であり、今後、世界にも日本の指標を紹介、普及していく予定である。

以上